

文学部 比較文化学科 教育における三つの方針

学位授与方針 [学士 (比較文化学)]

■ 知識・理解

- 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】
- 日本及び欧米をはじめとする地域の文学、言語、歴史、美術、宗教、生活様式、メディアといった多様な文化領域について理解している。【専門分野の知識・理解】

■ 技能

- 日本と欧米のいずれかに軸足を置きながら、文学、言語、歴史、美術、宗教、生活様式、メディアなど、多様な文化領域の研究方法を身につけている。【専門分野のスキル】
- 情報社会における情報及び情報システム、インターネットの特性を理解し、それらを活用する技能を身につけている。【情報活用能力】
- 自然現象や社会的現象に関する量的調査の基本的な考え方と分析技法を身につけている。【数量的スキル】
- 英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションができる英語力を身につけている。【英語力】
- 英語以外のヨーロッパの諸言語の文献を必要に応じて読みこなすことができる。【その他言語力】

■ 思考・判断・表現

- 日本及び欧米文化に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。【課題発見・分析・解決力】
- 自らの考え方を口頭や文章で的確に効果的に表現できる。【プレゼンテーション力】

■ 関心・意欲・態度

- 国際社会において、自文化の発信と異文化の理解を深める能力を持つ世界的な視野に立った人間として行動ができる。【実践力 (チャレンジ力)】
- 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
- 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
- 人間の総合的な理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって帰属する社会において積極的に行動できる。【市民としての社会的責任・倫理観】
- 日本文化と欧米文化をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高める。【生涯学習力】
- 文化の違いを踏まえたコミュニケーション能力を発揮できる。【コミュニケーション力】

教育課程編成・実施方針

比較文化学科では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

- 「基盤教育科目」から40単位以上、「専門教育科目」から84単位以上を修得する。
- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。「教養教育科目」から8単位以上、「情報教育科目」から2単位以上、「外国語教育科目」から12単位以上を修得する。(詳細は別記)
- 「専門教育科目」は、日本文化と異文化を深く認識する能力を獲得し、世界的な視野に立った国際人となることを目的として、「専門基礎教育科目」「英会話英作文・文化講読科目」「選択科目」「演習・卒論科目」「自由科目」の5つの科目群で構成する。各科目群の内容は以下のとおりとする。
 - 専門基礎教育科目
比較文化学科での学習の基礎となる科目群で、入門科目と概論科目に分かれる。
入門科目は、比較文化入門1(日本)と比較文化入門2(欧米)からなり、日本および欧米など各地域の多様な文化領域の理解とその研究方法、課題発見・解決能力、プレゼンテーション能力形成を目的として、1年次に配置する。
概論科目は多様な文化領域とその研究方法を概説する科目で、1年次から配置する。
入門科目4単位、概論科目8単位以上を修得する。
 - 英会話英作文・文化講読科目
英語コミュニケーション能力を高めるための英会話英作文と、日本語の古典や専門文献、欧米諸言語の文献を読みこなす能力を獲得するための文化講読科目からなる。

1年次に配置する英会話・英作文1・2は必修科目、2年次以降に配置する英会話・英作文3～10及びAdvanced English I・IIは各自の学習計画に応じて選択する。日本語及び英語の文化講読科目は1年次または2年次に、第二外国語の文化講読科目は3年次以降に配置する。

必修を含め、科目群全体で8単位以上を修得する。

□ 選択科目

「比較文化（領域系）科目」と「比較文化（地域系）科目」からなり、1年次には導入に当たる科目を、2～4年次にはより専門性の高い科目を配置する。

「比較文化（領域系）科目」は、複数の文化領域について比較文化の方法論を学習するための科目で、14単位以上を修得する。

「比較文化（地域系）科目」は、日本や欧米などの地域ごとに、文学、言語、歴史、美術、思想・宗教、生活様式、メディアなど様々な文化領域の知識と研究方法を学習するための科目で、日本系科目2単位・欧米系科目2単位が必修、合計20単位以上を修得する。

科目群全体では44単位以上を修得する。

□ 演習・卒論科目

指導教員のもとで自ら課題を設定し、考察・解決できる能力を習得するための演習科目と、それまでの学習・研究の集大成である卒業論文で構成する。3年次に演習A-1・2、4年次に演習B-1・2、卒業論文を修得する。合計14単位はすべて必修である。

□ 自由科目

教育職員免許状の取得、学芸員資格の取得、日本語教師の養成に必要な科目群で構成し、各資格などに必要な専門知識や技術を習得するための科目を2～4年次に配置する。ただし、自由科目の単位は卒業要件単位には算入されない。

入学者受入れ方針

比較文化学科では、次のような学生を求めています。

- 好奇心が旺盛で、日本及び世界の文化に関心があり、異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを図りたいという意欲的な学生